

15員環マクロライド系抗生物質製剤

処方箋医薬品注)注)注意−医師等の処方箋により使用すること

日本標準商品分類番号 876149

薬価基準収載

アジスロマイシン水和物錠

7ジスロマイシン錠250mg「DSEP」

AZITHROMYCIN TABLETS DSEP

先発医薬品名: ジスロマック®錠250mg[ファイザー]

医療事故防止への取り組み

表示を「より見易く」「より判り易く」工夫しました。



PTPシートの工夫

識別用オリジナルシンボル

薬剤の特徴や疾患の特性をイメージしたオリジナルシン ボルをPTPシートに表示いたしました。

GS1 データバ-

薬剤取り違え防止の負担を軽減する目的でPTPシートの 裏面にGS1データバーを表示しています。(PTPシートの印 刷色は先発製品の配色を踏襲)



錠剤の工夫

刻印

「識別コード」「有効成分の含量」を刻印し、判別し易くして います。





錠250mg[PTP:6錠シート]L:80mm×W:44mm



●錠剤・PTPシートは実物大です。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者





第一三共エスファ株式会社

URL https://www.daiichisankyo-ep.co.jp/

[お問い合わせ先及び文献請求先]

0120-100-601 受付時間:平日9:00~17:30(土·日·祝日·弊社休日を除く) 第一三共工スファ株式会社 お客様相談室 [夜間・休日 緊急時のお問い合わせ先]

15員環マクロライド系抗生物質製剤(アジスロマイシン水和物錠)

アジスロマイシン錠250mg「DSEP」 Drug Information

(一般名/アジスロマイシン水和物)

規制区分 処方箋医薬品^{注)}注)注意-医師等の処方箋により使用すること 室温保存 貯 法 有効期間 3年

承認番号	薬価収載	販売開始	効能追加
22500AMX01524	2013年12月	2013年12月	2016年9月

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 組成·性状

3.1 組成

成分・分量 (1錠中)	日局 アジスロマイシン水和物 262.0mg (アジスロマイシンとして250mg(カ価))
添加剤	無水リン酸水素カルシウム、部分アルファー化デンプン、ラウリル硫酸ナトリウム、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、乳糖水和物、ヒプロメロース、トリアセチン、酸化チタン、カルナウバロウ

3.2 製剤の性状

性状	白色~帯黄白色・フィルムコーティング錠		
外形	AZMEP AZM250		
規格	長径:13.8mm/短径:7.1mm 厚み:5.5mm 質量:468mg		
識別コード AZM EP AZM250			

4. 効能又は効果

〈適応菌種〉

アジスロマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラ クセラ (ブランハメラ)・カタラーリス、インフルエンザ菌、レジオネラ・ニュー モフィラ、ペプトストレプトコッカス属、プレボテラ属、クラミジア属、マイコ プラズマ属

〈適応症〉

深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁 桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、 尿道炎、子宮頸管炎、骨盤内炎症性疾患、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎

5. 効能又は効果に関連する注意

〈骨盤内炎症性疾患〉

5.1 淋菌を適応菌種とするのは、骨盤内炎症性疾患の適応症に限る

〈咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、副鼻 腔炎〉

5.2 「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上 で、本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。 〈肺炎〉

5.3 症状に応じてアジスロマイシン注射剤から治療を開始する必要性を判断す ること。[7.6、7.7 参照]

6. 用法及び用量

〈深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁 桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、副 鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎〉

成人にはアジスロマイシンとして、500mg(力価)を1日1回、3日間合計1.5g (力価)を経口投与する。

〈尿道炎、子宮頸管炎〉

成人にはアジスロマイシンとして、1000mg(力価)を1回経口投与する。 〈骨盤内炎症性疾患〉

成人にはアジスロマイシン注射剤による治療を行った後、アジスロマイシンと して250mg(力価)を1日1回経口投与する。

7. 用法及び用量に関連する注意

〈深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁 桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、副鼻腔 炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎〉

- 7.1 本剤で治療を開始し、4日目以降においても臨床症状が不変もしくは悪化の 場合には、医師の判断で適切な他の薬剤に変更すること。[16.7.2 参照]
- 7.2 外国の臨床における体内動態試験の成績から、本剤500mg(力価)を1日1回 3日間経口投与することにより、感受性菌に対して有効な組織内濃度が約7日間 持続することが予測されているので、治療に必要な投与期間は3日間とする。

〈尿道炎、子宮頸管炎〉

- 7.3 本剤投与開始後2~4週間は経過を観察し、効果を判定すること。細菌学的検 査結果又は臨床症状から効果が認められない場合には医師の判断で適切な他 の薬剤に変更すること。[16.7.2 参照]
- 7.4 本剤1000mg(力価)を1回経口投与することにより、アジスロマイシン感性 のトラコーマクラミジア(クラミジア・トラコマティス)に対して有効な組織内 濃度が約10日間持続することが予測されているので、治療に必要な投与回数 は1回とする。

〈肺炎〉

7.5 本剤で治療を開始し、4日目以降においても臨床症状が不変もしくは悪化の 場合には、医師の判断で適切な他の薬剤に変更すること。[16.7.2 参照]

7.6 アジスロマイシン注射剤から本剤に切り替える場合は、症状に応じて投与期 間を変更することができる。[5.3、17.1.7、17.1.8 参照]

日本標準商品分類番号 876149

- 7.7 アジスロマイシン注射剤から本剤へ切り替え、総投与期間が10日を超える 場合は、経過観察を十分に行うこと。アジスロマイシン注射剤からアジスロマ イシン錠へ切り替えた臨床試験は、医師が経口投与可能と判断した時点で、ア ジスロマイシン注射剤からアジスロマイシン錠500mg(力価)を1日1回投与 に切り替え、アジスロマイシン注射剤の投与期間は2~5日間、総投与期間は合 計7~10日間で実施され、総投与期間として10日間を超える投与経験は少な い。[5.3、17.1.7、17.1.8 参照]
 7.8 レジオネラ・ニューモフィラに対して、アジスロマイシン注射剤による治療
- を実施せずに本剤のみで治療した場合の有効性及び安全性は確立していない (投与経験が少ない)。

〈骨盤内炎症性疾患〉

- 7.9 アジスロマイシン注射剤から本剤へ切り替え、総投与期間が10日を超える 場合は、経過観察を十分に行うこと。アジスロマイシン注射剤からアジスロマ イシン錠へ切り替えた臨床試験は、医師が経口投与可能と判断した時点で、ア ジスロマイシン注射剤からアジスロマイシン錠250mg(力価)を1日1回投与 に切り替え、アジスロマイシン注射剤の投与期間は1~2日間、総投与期間は合 計7日間で実施され、総投与期間として7日間を超える投与経験はない。 [17.1.9 参照]
- 7.10 アジスロマイシン注射剤による治療を実施せずに本剤のみで治療した場 合の有効性及び安全性は確立していない(投与経験はない)。

8. 重要な基本的注意

- 8.1 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を 確認すること。
- 8.2 アナフィラキシー・ショックがあらわれるおそれがあるので、アレルギー既 往歴、薬物過敏症等について十分な問診を行うこと。[11.1.1 参照]
- 8.3 本剤の使用にあたっては、事前に患者に対して、次の点を指導すること。 [11.1.2 参照]
 - ・中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群が疑われる症状[発疹に加え、粘膜 (口唇、眼、外陰部)のびらんあるいは水ぶくれ等の症状]があらわれた場合に は、服用を中止し、ただちに医師に連絡すること
 - ・服用終了後においても上記症状があらわれることがあるので、症状があらわ れた場合にはただちに医師に連絡すること。
- 8.4 意識障害等があらわれることがあるので、自動車の運転等、危険を伴う機械 の操作に従事する際には注意するよう患者に十分に説明すること。
- 8.5 アジスロマイシンは組織内半減期が長いことから、投与終了数日後において も副作用が発現する可能性があるので、観察を十分に行うなど注意すること。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 他のマクロライド系又はケトライド系薬剤に対し過敏症の既往歴のある

9.1.2 心疾患のある患者

QT延長、心室性頻脈(Torsade de pointesを含む)を起こすことがある。 [11.1.8 参照]

9.3 肝機能障害患者

9.3.1 高度な肝機能障害のある患者

投与量並びに投与間隔に留意するなど慎重に投与すること。肝機能を悪化させ るおそれがある。

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回 ると判断される場合にのみ投与すること。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討す ること。ヒト母乳中に移行することが報告されている。

9.7 小児等

- 9.7.1 低出生体重児、新生児を対象とした臨床試験は実施していない。
- 9.7.2 白血球数減少が認められることがあるので、顆粒球数(好中球数)減少も合わせて十分観察を行い、異常が認められた場合には投与を中止し、必要があれ ば、他の抗菌薬に切り替えた上、症状に応じて対症療法等の適切な処置を行う こと。承認時に、小児で白血球数減少が認められたのは442例中33例で、この うち9例において好中球数が1000/mm³以下に減少した。白血球数減少が認め られた症例の多くは、投与開始7日後あるいは8日後の検査日において回復が みられた。[11.1.9、11.2 参照]
- 9.7.3 下痢が認められた場合には症状に応じて投与中止あるいは対症療法等の 適切な処置を行うこと。承認時の小児における下痢の発現頻度は、2歳未満 (124例中8例)では2歳以上(602例中6例)と比べて高い。[11.2 参照]
- 9.7.4 市販後の自発報告において、小児における興奮の報告が成人に比べて多い 傾向が認められている。[11.2 参照]

9.8 高齢者

患者の一般状態に注意して投与すること。アジスロマイシン経口剤の一般感染 症の臨床試験成績から、高齢者において認められた副作用の種類及び副作用発 現率は、非高齢者と同様であったが、一般に高齢者では、生理機能が低下してお り、血中・組織内濃度が高くなることがある。

10. 相互作用

10.2 併田注音(併田に注音すること)

	用に注意すること)	松阜 左股田フ
薬剤名等	臨床症状・措置方法 アジスロマイシンの最高血中	機序・危険因子
制酸剤(水酸化マグネシウム、水酸化マルミニウム)	アンスロマインンの最高皿中 濃度低下の報告がある。	機序不明
ワルファリン	国際標準化プロトロンビン比 上昇の報告がある。	マクロライド系薬剤はワルファリンの肝臓における主たる代謝酵素であるチトクロームP450を阻害するので、ワルファリンの作用が増強することがあるが、アジスロマイシンでの機序の詳細は明らかではない。
シクロスポリン	シクロスポリンの最高血中濃度の上昇及び血中濃度半減期 の延長の報告がある。	マクロライド系薬剤はシクロスポリンの主たる代謝酵素であるチトクロームP450を阻害するので、シクロスポリンの血中濃度が上昇することがあるが、アジスロマイシンでの機序の詳細は明らかではない。
ネルフィナビル	アジスロマイシン錠の1200mg 投与で、アジスロマイシンの濃 度・時間曲線下面積(AUC)及 び平均最高血中濃度の上昇の 報告がある。	機序不明
ジゴキシン	アジスロマイシンとの併用に より、ジゴキシン中毒の発現 リスク上昇の報告がある。	P-糖蛋白質を介したジゴキシンの輸送が阻害されることにより、ジゴキシンの血中濃度が上昇することを示唆した報告があるが、アジスロマイシンでの機序の詳細は明らかではない。
ベネトクラクス	ベネトクラクスの効果が減弱 するおそれがあるので、併用 を避けることが望ましい。	機序は不明であるが、ベネト クラクスの血中濃度が低下す る可能性がある。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められ た場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 全人を聞けれ 11.1.1 ショック (頻度不明)、アナフィラキシー (頻度不明) 呼吸困難、喘鳴。血管浮腫等を起こすことがある。また、アジスロマイシンは組織内半減期が長いことから、これらの副作用の治療中止後に再発する可能性があるので注意すること。[8.2 参照]

11.1.2 中毒性表皮壞死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis:TEN) (頻度不 明)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)(頻度不明)、急性汎発性発 疹性膿疱症(頻度不明)

異常が認められた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切 な処置を行うこと。これらの副作用はアジスロマイシンの投与中又は投与終了 後1週間以内に発現しているので、投与終了後も注意すること。また、アジスロ マイシンは組織内半減期が長いことから、これらの副作用の治療中止後に再発 する可能性があるので注意すること。[8.3 参照]

11.1.3 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)

初期症状として発疹、発熱がみられ、更に肝機能障害、リンパ節腫脹、白血球増 加、好酸球増多、異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状があらわ れることがある。なお、ヒトヘルペスウイルス6(HHV-6)等のウイルスの再活 性化を伴うことが多く、投与中止後も発疹、発熱、肝機能障害等の症状が再燃あ るいは遷延化することがあるので注意すること。

11.1.4 肝炎(頻度不明)、肝機能障害(頻度不明)、黄疸(頻度不明)、肝不全(頻度 不明)

11.1.5 急性腎障害(頻度不明)

乏尿等の症状や血中クレアチニン値上昇等の腎機能低下所見が認められた場 合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

11.1.6 偽膜性大腸炎(頻度不明)、出血性大腸炎(頻度不明)

偽膜性大腸炎、出血性大腸炎等の重篤な大腸炎があらわれることがあるので、 腹痛、頻回の下痢、血便等があらわれた場合にはただちに投与を中止し、適切な 処置を行うこと。

11.1.7 間質性肺炎(頻度不明)、好酸球性肺炎(頻度不明)

発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多等を伴う間質性肺炎、好酸球性 肺炎があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与 を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

- 11.1.8 QT延長(頻度不明)、心室性頻脈(Torsade de pointesを含む)(頻度不明)
- 〇T延長等の心疾患のある患者には特に注意すること。[9.1.2 参照] 11.1.9 白血球減少(頻度不明)、顆粒球減少(頻度不明)、血小板減少(頻度不明) [9.7.2 参照]

11.1.10 横紋筋融解症(頻度不明)

筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇等があらわれた場合 には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、横紋筋融解症による急性腎 障害の発症に注意すること。

11.2 その他の副作用

	1%以上a)	0.1~1%未満a)	0.1%未満a)	頻度不明
皮膚		発疹、蕁麻疹、 そう痒症		光線過敏性反応、紅斑、水疱、皮膚剥離、多形紅斑、寝汗、多汗症、皮膚乾燥、皮膚変色、脱毛

	1%以上a)	0.1~1%未満a)	0.1%未満a)	頻度不明
血液	好酸球数 増加	白血球数減少的	血小板数増加、 好塩基球数増加、顆粒球数減 か、プロトロン ビン時間延長、 血小板数減少	貧血、リンパ球数減少、ヘモグロビン減少、ヘー酸が増加少、白血球数増加
血管障害		血栓性静脈炎		潮紅
循環器				血圧低下、動悸、血圧 上昇
肝臓	ALT増加	AST増加、ALP 増加、y-GTP増加、LDH増加、肝 機能検査異常	血中ビリルビ ン増加	
腎臓			BUN増加、尿中 蛋白陽性	クレアチニン増加、腎 臓痛、排尿困難、尿潜 血陽性、頻尿
消化器	下痢♡	腹痛、悪心、嘔吐、腹部不快感、腹部膨満	便秘、口内炎、 消化不良、食欲 不 抜 、	舌変色、ロ・舌のしびれ感、おくび、胃炎、ロ内乾燥、唾液増加内炎、アフタ性ロ内炎、口腔内不快感、消化管障害、口唇炎
精神·神経系			頭痛、めまい、 灼熱感、傾眠、 味覚異常、感覚 鈍麻、不眠症	失神、痙攣、振戦、激越 ^d 、 嗅覚異常、無嗅覚、神 経過敏、不安、錯感覚、 攻撃性
感染症		カンジダ症	胃腸炎	真菌感染、咽頭炎、皮膚 感染、肺炎、β溶血性レ ンサ球菌感染、膣炎
眼				結膜炎、眼瞼浮腫、霧 視、ぶどう膜炎、眼痛、 視力障害
筋骨格系				筋肉痛、関節痛、頚部痛、背部痛、四肢痛、関節腫脹
呼吸器			咳嗽、呼吸困難、嗄声	鼻出血、アレルギー性 鼻炎くしゃみ、ラ音、気 管障害、低音性連続性 ラ音、鼻部障害、鼻閉、 鼻漏、準鳴性気管支音、 痰貯留
耳				耳痛、難聴、耳鳴、聴力 低下、耳の障害
生殖器			卵巣嚢腫	精巣痛、不正子宮出血
代謝			血中カリウム 減少、血中カリ ウム増加	脱水、血中重炭酸塩減少、低カリウム血症
注入部位		疼痛	血管外漏出、紅 斑	
その他			発熱、口渇、気分 不良、倦怠感、浮 遊感	胸痛、無力症、浮腫、低 体温、不整脈、咽喉頭異 物感、局所腫脹、粘膜異 常感覚、疼痛、疲労

- a) 250mg錠、カプセル、細粒の承認時の臨床試験と市販後の使用成績調査及び注射剤の 承認時の臨床試験を合わせた発現頻度。
- b) [9.7.2 参照]
- c) [973 参昭]
- d) [9.7.4 参照]

13. 過量投与

13.1 症状

本剤の過量投与により聴力障害を起こす可能性がある。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦 隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。

15. その他の注意

15.1 臨床使用に基づく情報

アジスロマイシンとの因果関係は不明だが、心悸亢進、間質性腎炎、肝壊死、運 動亢進があらわれたとの報告がある。

15.2 非臨床試験に基づく情報

- 15.2.1 ラットの受胎能及び一般生殖能試験(雄2ヵ月以上、雌2週間以上投与)で、 20mg/kg投与の雄雌に受胎率の低下が認められた。
- 15.2.2 動物(ラット、イヌ)に20~100mg/kgを1~6ヵ月間反復投与した場合に 様々な組織(眼球網膜 肝臓, 肺臓、胆嚢 腎臓、脾臓、脈絡養 末梢神経等)にリン 脂質空胞形成がみられたが、投薬中止後消失することが確認されている。なお、 リン脂質空胞はアジスロマイシン-リン脂質複合体を形成することによる組織 像と解釈され、その毒性学的意義は低い。

22. 包装

(PTP) 60錠(6錠×10)

製造販売元 全星薬品工業株式会社 大阪市阿倍野区旭町1-2-7

販売元

第一三共エスファ株式会社 東京都中央区日本橋本町3-5-1

販売提携

第一三共株式会社

Dailchi-Sankyo 東京都中央区日本橋本町3-5-1